

## 令和6年度の主な国際交流・多文化共生推進関連事業について

※ 「京都市国際都市ビジョン」における国際都市像毎に記載

**国際都市像 1** 世界を魅了し、多種多様な人々が集まるまち

## 【取組の方向性】

- ① 新たな価値創出につながる京都の魅力の深化
- ② 外国人研究者や技術者、起業家、留学生等にとって魅力ある環境整備
- ③ あらゆる機会を通じた世界の都市「KYOTO」の魅力発信

## 【令和6年度の主な関連事業】

➤ 京都の若者が世界の多彩な才能と交流する仕組みづくり (17,000千円)

海外からクリエイティブな人材を京都に呼び込み、地域とつなげることによって、知的交流を促す仕組みをつくるためのモデル事業を実施した。

既存の取組をリサーチし、アーティスト・イン・レジデンスの実績のある施設等のネットワークを形成するとともに、ノウハウ等が不足して躊躇している施設等をネットワークによりサポートし、受け入れを促すためのミートアップ等を開催した。

➤ 留学生スタディ京都ネットワーク (15,000千円)

大学、日本語学校、専修学校、経済界、京都府とともに、海外から京都の大学等への留学を促進するための組織を設立し、海外や首都圏の日本語学校から留学生を獲得するためのプロモーションや、国内外からの相談・問合せへのワンストップ窓口の開設、さらに留学生の住環境整備や就業支援に関して、オール京都体制で推進していく。

➤ 万博を契機とした海外ビジネス交流促進・ネットワーク構築事業 (11,700千円)

大阪・関西万博を契機に、市内企業等のグローバルなビジネス展開や海外からの投資拡大を図るため、海外に向けて、ウェブサイト等で京都市の強みを発信するとともに、海外とコネクションを有する様々な関係機関とのネットワークを構築し、万博会期中にパビリオン出展等を行う海外の企業や政府関係者等を主なターゲットに、インキュベーション施設、大学、市内企業等の現地視察やビジネスイベントなどを組み込んだ、テクニカルツアーを実施。

- ・令和6年6月にツアー企画提案・調整窓口を開設
- ・大使館・領事館関係者等を対象としたファミトリップを2件実施

## 国際都市像2 海外都市との連携が強まり、国際社会に貢献するまち

### 【取組の方向性】

- ① 文化の力を土台とした国際交流・協力による国際社会や世界平和への貢献
- ② 海外都市との相互利益型の都市間交流の推進

### 【令和6年度の主な関連事業】

#### ➤ 世界歴史都市連盟事業（19,084千円）

令和6年11月12～14日に、スロベニアのリュブリャナ市において、第19回世界歴史都市会議及び2024年度世界歴史都市連盟総会・理事会を開催し、京都市から京都市長をはじめとする代表団を派遣した。

会議では、「持続可能な都市モビリティによる活気ある歩きやすい市街地づくり」をテーマに、基調講演や加盟都市による発表、専門家会議等が行われ、文化遺産の保護、持続可能な都市開発等に共に取り組むことを確認する「リュブリャナ宣言」が採択された。

そのほか、連盟事務局では、機関紙の発行や公式ウェブサイトによる情報発信等を行った。

#### ➤ イクレイ等のネットワーク組織と連携した国際発信（3,295千円）

持続可能な社会の実現に向けて積極的に取り組む国際的な自治体ネットワーク組織「イクレイ-持続可能な都市と地域をめざす自治体協議会」に加盟し、国内外の自治体との連携を図っている。（※京都市長がイクレイ東アジア地域理事会の議長を務めるとともに、イクレイ日本に本市職員を1名派遣）

地球規模での温暖化対策を促進するため、令和6年度はイクレイ世界大会をはじめとした国際会議において、本市の取組を広く発信した（令和6年6月）。

#### ➤ 京都・西安友好都市提携50周年記念事業（9,368千円）

西安市との友好都市提携50周年を記念し、京都市及び西安市において、様々な記念事業を実施した。

京都市内では、京都国際マンガミュージアムの協力のもと、中国にゆかりのある漫画や西安を紹介するパネルを通じて、市民に西安市を知っていただく展示「マンガで学ぶ友好都市・西安」を実施するとともに、中国の伝統的な音楽や歴史文化などを体験できるイベント「西安デイ～中国の春節を体感しよう！～」を開催した。

また、西安市内では、京都市代表団の訪問に合わせて、京都の伝統産業の魅力を発信するイベント「西安京都フェア」や、京都の魅力を紹介し、京都・日本への留学や観光・就職等での来訪を促進するためのセミナー「ようこそ、京都へ！おこしやすセミナー」、さらには両市の青少年交流等の記念事業を実施した。

## 国際都市像3 **さまざまな世代で国際交流や多文化共生の意識が高まり、 国際感覚をもった人が育つまち**

### 【取組の方向性】

- ① グローバルな視点をもって地域の発展に貢献する担い手の育成
- ② 幅広い年齢層が世界の多様な文化に触れる機会の創出
- ③ 京都市の国際展開を支える職員の育成

### 【令和6年度の主な関連事業】

#### ➤ 英語教育・国際交流の推進 (39,963千円)

子どもたちが実践的な英語力を身につけることができるよう、小学校で日常的に英語に触れるための取組、中高校生の英検受検料補助、高校での修学旅行等や海外姉妹校との相互交流、GTECの活用に取り組んだ。

また令和6年度から海外での「京都市立高校グローバルリーダー育成研修」を再開し、多様な文化や価値観に触れる経験を通して、グローバル人材としての素地を育む。

#### ➤ 国際交流会館管理運営（指定管理） (178,693千円)

京都市国際交流会館では、市民レベルの国際交流や多文化共生を推進するための各種事業を実施しているほか、各種活動の場として広く市民に活用されている。

【令和6年度の来館者数】約19万人（令和6年12月末現在）

##### 1 市民への情報提供・相談事業

ホームページやメールマガジン等を活用した情報発信、「京都市外国籍市民総合相談窓口」の運営（「行政書士による出入国管理手続き相談」、「外国人のためのカウンセリング・デイ」、「生活相談」など）

##### 2 国際交流団体等との連携事業（「kokoka国際交流団体ねっと」の運営など）

##### 3 共生社会を促進していくための担い手育成事業（ボランティア活動育成事業など）

##### 4 異文化理解・多文化共生社会への促進事業（kokokaオープンデイ、やさしい日本語講座など）

##### 5 留学生への支援、留学生との協働・交流事業（京都留学生情報サイトなど）

##### 6 広報・出版・広告事業（イベントカレンダーの発行など）

##### 7 姉妹都市コーナー・展示室の運営

#### ➤ 留学生や外国籍市民の地域事業への参加促進 (100千円)

災害時などの緊急時に地域住民との間で「近助」が確実に機能するよう、平時から交流する機会を創出する。

→ 令和6年度は、上京区民ふれあいまつり2024に同志社大学の留学生に参画いただく予定で進めていたが、衆議院選挙の投票日と重り開催中止となったため、実施できなかった

## 国際都市像4 多様性を生かしたまちづくりが進み、市民の生活が豊かになっているまち

### 【取組の方向性】

- ① 多言語による情報提供・コミュニケーション支援
- ② 外国籍市民等が安心・安全に暮らせる体制整備
- ③ 外国籍市民等による地域・市民活動への参加促進
- ④ 外国籍市民等の地域での就労支援

### 【令和6年度の主な関連事業】

#### ➤ 区役所庁舎案内表示のデジタル化 (18,500 千円)

各区役所・支所に、「区役所に来たけど、どこの窓口で手続きをしたらいいかわからない」といった際、簡単な操作でスムーズに目的の窓口へ御案内するシステムを導入。日本語、英語、中国語（繁体・簡体）、韓国語の表示が可能。

#### ➤ 多文化が息づくまちづくりに向けた日本語指導体制等の充実 (24,504 千円)

日本語の理解が十分でない外国にルーツをもつ児童生徒等の増加傾向をふまえ、受入時に迅速かつ的確に対応できる新たな体制として、日本語指導担当教員の派遣等の総合的な支援を行うサポート校を設置し、外国にルーツをもつ児童生徒の受け入れを進めている。その体制のもと、日本語初期集中指導教室「わかば」の設置や巡回指導を担当する教員、母語による学校生活の適応促進や通訳等の主に言語面の支援を行う母語支援員を配置して一層の充実を図る。

#### ➤ 京都市外国籍市民総合相談窓口運営 (9,165 千円)

在留手続、雇用、医療、福祉、出産・子育て・子供の教育等の生活に係る適切な情報や相談場所に迅速に到達することができるよう、多言語による情報提供及び相談を行っている。

また、令和6年度から、本市ベトナム籍市民の増加に伴い、ベトナム語通訳相談者を新規雇用し、行政通訳相談体制を拡充するとともに、待遇面の課題から人員の確保が困難となっている英語・中国語の既存通訳相談者について、報酬水準を見直し、事業を安定的に運営する体制を確保した。

- ・ 令和6年度相談件数（令和6年12月末現在）：7,438件